

整理番号

D-1-4 517

標 題 名

二化螟虫第2回被害茎切取ニ関スル参考資料

著 者 名

発行者名

農商務省農務局

発 行 年

大正4年（1915年）

製作年月

2026年8月

寄贈図書

平野伊一氏

大正四年地方農事試験場調査報告

二化螟蟲第二回
被害茎切取ニ関スル

參考資料

農務局



50年9月2日

植物防疫館
資料館

目次

一、勞之同被害甚切取之際最困難之感	一頁
二、勞之同被害甚切取之際一般農家苦情多矣	七頁
三、切取法上之簡便有効上認法上之手段方法	一三頁
四、切取法上之簡便有効上認法上之手段方法	一七頁
五、切取法上之簡便有効上認法上之手段方法	二二頁

ニ化螟虫等ニ因被害甚切取ニ関スル
参考資料 (地方農事試験協報卷)

一 第一回被害甚切取ニ際シ最困難ヲ感スル点

東京

(1) 一般ニ未タ被害ノ多大ナルヲ感知セサルコト
(2) 烟作繁殖時期ニ水田ニ于テ廻シ兼ヌルコト

京都

(1) 健稻ニ過シ被害シキハサル様ニ切取ルコト
(2) 被害甚クシクテ発見スルコト

出穂後ハ発見容易ナルヲ出穂ニ至ル迄ニ
在リテハ之ヲ発見スルニ困難ナ

(3) 乳熟期ヲ過リテ健稻ヲ損傷シ易ク且切取ニ
困難ナ

(4) 一度被害甚ク拔取ヲタテ株ヲシテ更ニ被害甚ク
出サヌ様一圓或ハ二圓ニ全部拔取ルコト即チ一回
或ハ二回ヲ最有効ニ拔取ルコト
兵庫

(5) 第二回被害甚切取ニ際シ最困難ヲ感スル点ハ
被害甚ク見出ニ在リ

新澤

(1) 本縣ニ於テ稲作件ハ別ニ約十セブ所歩シテ此
中乾田ト認ナルハ五カ所歩ニ過キヌシテ其餘係
ハ湿田及湛水田ナリ故ニ第一回被害甚切取ニ際
シテ水田ニ於テ作業困難ニシテ工程ノ進行セサル結果
比較的多クノ労力ヲ要スルニ至ル

(2) 本縣ニ於テ試験結果ニ密植ナルニ従ヒ收穫ヲ
増加スルヲ以テ被害甚切取作業ニ密植ナルニ従ヒ

因難ヲ感ス從テ工程ノ進リヲ妨ケ且亦存ク損傷タル弊ヲ増加スヘシ

埼玉

(4) 葉鞘変色等ヲ識別シ難キト

群馬

(1) 稻作倒伏セル場合之ヲ一有難案ニシテ之ヲ能ハス
(2) 一般農家ノ智識切難ナル爲如何ニ嚴重ナル
指導ヲ獎勵セラルハナリト

千葉

(1) 被害甚多キトキ切取リタルモノ雖田ニ持出スニ
困難ヲ感ス一牧ノ耕地面積廣キ場合ニ於テ
殊ニ於リ難ニ際ニ切取モ田中ニ蹈込ハ時ハ
容易ニ其處埋ヲナスヲ得併セテ難作ナリ煩虫
ヲ殺シ得ルニ便アリ

神奈川

(1) 害虫ニ蝕入セルモノニテ外観何等ノ異状ヲ呈セサル
モノヲ見出スコト

栃木

(1) 切取作業力甚タ面倒ナルト
三重

(1) 甚テ同被害甚切取ニ際シ最困難ヲ感スル莫
キ強ク索レハ朝露ノ期間ヲ避クルニ在リ

愛知

(1) 蟬ノ被害甚切取ニ就テ作業其モノハ甚タキ
困難ヲ感スルモノニ非ズ特ニ之等被害甚ク出現ハ
早キモ八月下旬普通通中旬ニ至ルモ一般農家
ハ多少秋作飼育中ニ至ルトモ敢テ農繁期ト
謂フニ非ラス寧ニ閑散時期ニ属セリ特ニトモ

蠟虫被害甚、切取ハ被害程度、如何依リ一
概ニ論スヘキニ非サルモ、多ク、場合一回一回切取ニ
テ、全株駆除シ得ルモノモ、非ス之カ完全ニ期スルハ
数回繰返サルハカラス、此ヲ勞力ヲ要スルコト顯
多キ、駆除上最困難ナル処ナリ

静岡

(1) 白蠟切取ノ要、多ク、承知シ居ルモ、実ナリ、必要ヲ
自覺セズ、樹林等閑シ流ルコト

(2) 一般農家(主トシテ自作中作農)ハ見ルニ、未タ蠟
虫、被害ヲ比較スルノ智識ニ乏シキ故進シテ實
行シ難キナリ

(3) 未タ害虫特ニ蠟虫ニ関シ指導獎勵下、廣
家ニ及ハサルヲ以テ、自作農ナリシ難キナリ

(4) 蠟虫、被害比較的、降産子、如ク、蠟蟲ニ未

ニサルヲ以テ、自作等閑シ流ルコト

(5) 軍ニ同、駆除ヲ以テ、效果充分ナラス、數回繰
リ、ハ、煩雜ナルノ嫌アルヲ以テ、數回ハ、実行シ難キナリ

滋賀

(1) 其ニ同、被害甚切取、際ニ最困難ニ感スル莫
完全ナル切取、畧目ノナキニ在ル

岐阜

(1) 秋蚕最盛期ナルヲ以テ、勞力分配上困難ナリ

山形

(1) 被害甚中、自徳トナリテ、顯ニサルモノヲ、採取ルニ困
難ナルナリ

秋田

(1) 未タ適當ニ被害甚切取、畧ナキヲ以テ、充分根
際ヨリ切取リ難ハサルコト

富山

(1) 刈取、良法ナキト

島根

(1) 被害甚切取、効果大ナル期節ニ其被害甚シ
認定シ難ク從テ刈取困難ナルト

(2) 被害甚切取、効果大ナル期節、晩稻ノ穂
果又ハ出穂初ナルト

岡山

(1) 頭部ヲ株間ニ差合テテ株ヲ分テテ、捜索スルニ
非ヤ六葉鞘変色甚ノ処見難キヲ以テ駆除
ニ長時間ヲ要スルハ取困難ナル所ナリ

広島

(1) 根元ヨリ刈取ラサルヘカウサルカ故ニ作業容易ナラ
ルニト

(2) 葉鞘変色ノ初期ニ於テ健全基ト被害基ノ

見分方容易ナラサルト

以上ノ最多ク認めラル、高ニシテ其他

(1) 眼ヲ突ク虞アルニト

(2) 蝕入時間不同ナルニ依リ刈取ヲ数回ニ亘リ行フニト

農家ヨリテハ難キト

(3) 被害甚カ株ノ中央ニハ時ハ健全基ヲ害スルニト

(4) 稲倒伏シタルトモ見分困難ナルニト

山口

(1) 葉鞘変色甚ノ際、捜索容易ナラサルト

(2) 基葉已ニ成長繁茂セルヲ以テ他ノ駆除法ヨリモ

比較的作業難渋ナルニト

和歌山

(1) 深水ニ過キタルトキ(特別ナル場合ナリ)

- (11) 大槓又ハ密植トキ(ツ)
- (12) 幼虫蝕入初期、被害甚識別困難ナルコト
- (13) 倒伏セル場合(ハトハ様)

香川

- (1) 被害一回被害甚切取(即チ葉鞘変色甚)ノ際実行困難ヲ感スルコト多ク開花時期及穂熟期ナルヲ以テ稲田ニ入ルコトヲ忌避スル傾向アリ移レニ本縣ニ於テ一兩年來奨励ノ結果一部分ノ農家ハ自ラ進シテ実施スルモノヲ見ルニ至セリ
- (2) 此時期葉鞘ニ於テ氏神祭時期ナルヲ以テ扱ノテ多シク杜ナシテ其為採取困難ナリ
- (3) 農家ハホウ葉鞘変色甚採取ノ效果ヲ充分了解セズ熱心ニ採取セサルヲ以テ扱ナルニ自慊シ多ク発生ニ振テ效果少キ感ヲ抱キモアリ

(1) 一部ノ民間ニ於テハ被害一回発生ノ後期ニ於テ扱テ実リタルヲ有効ナリト主張スルモノアリ之レ此期間ハ農家ノ閑散ニシテ亦被害心甚甚金部黄色シ望シ見分ケ易キ時期セハナリ

福岡

(1) 葉鞘変色期即チ最有効ナル時期ヲ判別採集セルル事

宮崎

(1) 発生期ニ定セラルト被害甚ハ區別顯著ナラサルニ至リ一回切取シテ到底満足ナル結果ヲ得ル能ハス斯テ徒ラ時日ヲ遷延スルニ至ヒ被害甚ハ次第ニ増加シ加之ニ螟虫ノ被害甚ハ顕出シ勢ヒ多数ノ勞力ヲ要スル切取器具ノ設備不充分ナル実リ上困難ヲ感スルヲ莫ナリトス

虫害の要

- (1) 蝨類ノ害ニ対シテ切取ハ最モ有効ナルモ未タ穂ノ異状
ナク葉ノ鞘ニシテ葉ノ基部アルモノヲ株毎ニ搜索シ速
ニ発見セシメントスルコトヲ作葉ノ熟練ヲ要スルコト
紋様褐色斑點病ノ斑紋及浮塵子ノ産卵ノ
被害ニ化煩虫蝨ノ侵入當時ノ被害ニ紛ハレキモノアリ
此等カ鑑別ニ熟練ヲ要スルコトヲ作葉ノ注意指
導ニ關シテ多少此等ノ切取ニ及ハサルモノヲ切ルハ
免レザルカ如シ
- (2) 切取ノ切取ヲ行フモ多クハ不注意又ハ畝際不
適當ニ爲シ土際ヨリ切取ラズ株本高ク又ハ斜ニ
切リ或ハ葉ノ鞘ヲ残存シテ殘ニ虫ハ早速他ニ
移リテ新被害ヲ表スルコト
- (3) 時期ハ穂ノ膨レタルトキ即チ穂ノ熟及穂ノ出

揃前トモ其頃ノ被害ハ素人目ニ認メ難キヲ以
テ害サント唱ヘテ放置シ穂ノ色付ク頃ヨリ續々
被害ノ表ハルニ當リ切取ヲ行フコトヲ以テ千
數多ク効果ノ見ルヘキモノ極メテ少キコト等ナリ

第三回被害甚切永ニ際シ一般農家ノ苦情多ク矣

東京

- (イ) 年数多ク要ス割合ニ利益ノ多クナル稲作ヲ
論シヨリニ時々収益アル蔬菜作ニ注意スル方得
テ年々トスルコト

京都

- (イ) 稲ノ穂熟ヨリ開花時期ナルヲ以テ稲田ニ入ルコト忌ム
(ロ) 勞力ノ欠乏(當時ハ秋時蔬菜類ノ人手入時ニ比
較的多ク極ム)
(ハ) 本年発生甚多シ明年ニ引續キ甚タレキ燒
生ヲナスモノ非スト信シ且一回拔キタルモノ更ニ被
害甚ク出スヲ以テ今年駆除シ難キモノト信ナルカ
故ニ是ヲ各種ノ口實ヲ設ケ拔取ヲ行ハス

兵庫

- (イ) 農家ニ實行セラルニ於テ苦情多ク莫ク被害
甚拔取ニ於テ甚タレキ年数ヲ要スルニ在リ

新隊

- (イ) 被害甚多ク永年ノ被害セラルコト悲ルニ在リ
(ロ) 湛水田ノ如ク又ハ深田ノ如ク其作業或ハ不可
能ナルヲ以テ此ノ駆除切取ニ關シ苦情多クカレシ
場ニ

- (ハ) 切取ニ對スル效果ニ疑フ者

- (ニ) 稲田ニ踏入ルコト忌ム者

- (ハ) 秋蚕期ニ際スル者

- (ロ) 必要ト認メサル者

- (ホ) 被害ノ初期ニ於テハ切取ヲ惜ム者

群馬

- (イ) 時恰ニ穂熟期又ハ出穂期ニ際スルヲ以テ稲田ニ

出入ストキミカ爲稻根ヲ切斷又ハ花粉ヲ他ニ飛散セシメ反テ成熟ニ害アリト称シ拖リタルモノゾナシニ等シ苦情トス

千葉

(イ) 労力ヲ多ク要スルコト

(ロ) 多クノ場合ニ於テ協会的ニ駆除ヲ行フコト能ハル状態ニ在ルヲ以テ個人トシテ案ヲ定ム其効果少

クヲ難スルコト

北沢城

(イ) 虫害者ハ此ハ螟虫ノ被害程度ヲ知ラサル爲
害者ノ煩シキコトミシヲ想像スルコト

栃木

(イ) 切取ヲ行フニ其年ノ收穫ニ利得ナク却テ結実セルモノヲ切取ルトキハ收穫ヲ減スルコト又切取ヲ行

フニ翌年ノ発生カ必ズシテ減少セサルコト

三重

(イ) 実行ニ苦情多キハ散花及根部踏切シ難ク
在リ

愛知

(イ) 前記如ク被害甚切取ニ労力ヲ要スルコト多キカ故ニ雖令其効果ノ駆除ノ程度ニ從ヒ増加スヘキ
場合ニ於テモ執ルニ力案ヲ定ムコト多ク苦情アリ

静岡

(イ) 白穂切取ニ際シ根ヲ踏切ルハ根穂ヲ作ルニ害
アルコト

(ロ) 鈴花ヲ落ストキ以テ結実ニ被害アリト称スルコト

(ハ) 年数ヲ要スルコト

- (1) 結茎ノ一本ヲ、切出テ面倒ナルコト
- (2) 実リノ暇ナキコト

滋賀

- (1) 農家ノ実リセシムルニ於テ苦情多ク莫ハ稻ノ穂及開花期ニ踏入ルコトヲ忌ム又厲行上因難ヲ感スル莫イ蝕入初期(即チ切取ニ最適シ時期)ニハ基ハ外觀上健全ナルカ故ニ切取ヲ惜ムトナリ

岐阜

- (1) 前項(秋蚕最盛期ナルヲ以テ勞力今配上困難ナリ)ノ結果收支相償ハサルヲ以テナリ

山形

- (1) 完全トモ言ヒ難キモ実好シムヤモ以テ多クノ苦情ヲ認メタ

秋田

- (1) 農家一戸ニ對シ耕地面積比較的多キト且従来農家多クハ禰採取作業(刈取前十日内外)ト今時ニ被害甚振アリヲ爲スヲ以テ蠟虫ノ最盛期(乳熟期)前ニ當リ特ニ実リセシムルニ勞力今配上不可能トナヌコト
- (2) 蠟虫ニ關スル觀念之ニキト移シ従来非常ノ蝕害ニ遭遇シ莫クナキヲ以テ多少ノ花生ヲ見ルモ敢テ意トセム却テ之カ抑止所要勞銀ハ秋收ニ於テ回收シ難ナトナヌコト
- (3) 蠟虫ハ稻翅病、如ク上作、前出ト考ヘ居ルノ状態ナルヲ以テ之ヲ実リセシムルニ於テ無意義ノ苦情ナルコト

富山

(イ) 勞力ヲ惜ムコト

(ロ) 稲刈倒伏セシメ成熟ヲ妨グルコト

島根

(イ) 前項(被害甚切取)效果大ナルモ期節ハ晚

稲穂熟又ニ出穂始ナルコト、期節本数多ク割

合ニ蠟虫少キコト

(ロ) 被害甚切取ノ爲ニ得ニ利得ヲ数年的ニ現スコト

困難(仮定ニテラス)ナルカ爲農家ハ切取ノ利益ヲ

認メ難シト称ス

(ハ) 被害甚切取ルトキハ風害ニ罹リ易シト称ス

(ニ) 被害甚切取ハ勞力ト時間トヲ要スルコト多ク実

行ニ難シト称ス

(ホ) 出穂後ノ被害甚切取セバ、收穫セハ批ヲ收穫シ

得ルニ至リ切取ルトキハ收穫量ヲ減スト称ス

岡山

(イ) 駆除人夫多數ヲ要スル付苦情アリ

広島

(イ) 稲根ヲ踏切り成育ヲ害スルコト

(ロ) 出穂前花期中ニ稲田ニ入ルトキ忌ムコト

以上ニ項カ最多ク認メラル、余ニテ其他

(ハ) 天候ニ基因スト考ヘ被害甚切取ハ效果ナシト

言フコト

(ニ) 勞力関係上他ノ別業ニ依リテ経済ヲ維持セシムハ

斯ノ作業ニ専心從事スルコト難イナルコト

山口

(イ) 稲ノ根ヲ踏切ル憂アリトナスモノ

(ロ) 花畧ヲ動揺損傷スルコト以テ受胎作用ニ害アリト

ナスモノ

和歌山

(1) 二化螟虫被害ニ化期ハ地方ニ依リ夏秋産卵多
忙期ナルコト

(2) 被害甚切取ノ操作ハ浮塵子駆除ノ如ク容易
ナラス多ク人夫ト時期シ要ナルコト

(3) 被害ニ化期ノ被害ニ其年ノ收穫ニ大ニ影響有リ
トハスト思フニ勿論翌年ノ螟虫発生ニ如何ナル
関係アルヤヲ知ラサルモノ多クスト並被害甚刈取
ハ精力多クシテ効極ナラシト僻見ヲ有シ且ツ天
候ニ依リテ前年発生多ク地方ニテ翌年発生少
キカ如キ实例アルトニ依リ苦情多シ

(4) 被害初期ニ於テハ開花中ナルコト多クニ依リ稲田ニ
入ルル好マサルコト

香川

(1) 被害一項(被害ニ同被害甚甚切(即チ葉鞘変
色甚甚)ノ際実リ困難ナルヲ感スルモノ多ク稲田花
時期及穂糸期ナルヲ以テ稲田ニ入ルトシ忌避スル
向アリ然レトモ本縣ニ於テハ一兩年來奨励ノ結果
一部分ノ農家ハ自ラ進ンテ実施スルモノ見ルニ至
レリノ實ニ付苦情多シ

福岡

(1) 本縣ニ於テハ從來枯穂拔取ヲウチリセシヲ以テ
別ニ苦情ヲ認メス

山口

(1) 切取ノ効果ヲシテ明確ニ周知セシムルコト困難ナル
コト

愛媛

(1) 從來リテ所時期ヲ先シ且多クハ形式ニ流シテ

結果ノ見ルヘオモノ少キ以テ志ニ手教ヲ要ストナ
向少カラサルコト

三 切取法トシテ簡便有効ト認メラレタル手段方法

東京

(1) 被害甚切ニ際シ簡便有効ト認ルルハ小ナリ
切取鎌ヲ使用シ小學校ノ上級児童ニシテ被害
甚テ切取ニ當ラシメ之ニ奨励シ方法ヲ講スルコト
(2) 一般農家ニ被害程度シ今一當具體的ニ最
果近ニ説明カシムコト

京都

(1) 可成暇ニ初期ニ於テ地際ヨリ一寸半ノ小ナリ鎌
ニテ切取ルヨリ他ニ方法ナシ

兵庫

(1) 吉野式甚切鎌ヲ切取ヲ以テ方法
埼玉

(1) 又度リ五六分柄ノ長サ五寸内外ノ小鎌ヲ用ヒ被害

甚シ根本ヨリ切取ルコト

群馬

(1) 吉野式ノ如キ小サキ甚切鎌ヲ使用スルコト最便トス

千葉

(1) 斗鎌ヲ以テ切取ヲ行フニ在リ

茨城

(1) 当地ニ於テハ被害甚切取用トシテ在圖ノ如キ細長
斗鎌ヲ使用シタルニ簡便ニシテ頗ル有効ト認メタリ

(圖解参照)

栃木

(1) 針金製自穂刈取鎌ヲ用ルコト便トス

三重

(1) 甚切鎌使用ヲ便利トス

愛知

(1) 目下ノ被害甚基并生ノ初期即チ被害基中ニ
於テ虫ノ他ニ逸散セサル先チ切取リハ多少勞
力ヲ要スルモ少ク其効果ニ比較的大ナルヘシ

静岡

(1) 従来施行方法以外ニ簡便有効ナル手段方法ヲ
認メス

滋賀

(1) 切取法トシテ簡便有効ト認メる手段方法、并
見セス

岐阜

(1) 鎌ニテ切取ルニ在リ

山形

(1) 良法ヲ認メス

秋田

(1) 未ダ的確ナル手段方法ナシ

富山

(1) 木鋏又ハ林切鎌ヲ使用スルニ簡便ト認ム

島根

(1) 植基切取鎌（静岡縣焼津所吉野寅之助製
及之ニ類スルモノ）ヲ使用スルニ外簡易有効ナルヲ
并見セス

廣島

(1) 愛知縣武豊所中小製作所并賣切取鎌
ヲ用ヘルニト

山口

(1) 結局當業者ノ自覺ト熟練ニ待ツ外ナシ其
他ニ於テハ根ニ腐キ面積ニ直ラズ除草ノ姿勢
ヲ以テ左右ニ株分下寧ニ根柢セシムル方却テ効

果大ナルカ如シ而シテ蝕入甚キ葉鞘ノ変化シ来ス
ト共ニ必ズ葉片一部枯凋捲縮スルヲ以テ此等
凋セル葉片ニ着目セシムトキハ一層検査ニ便ナル
カ如シ

和歌山

- (イ) 刈取方法トシテ何レモ各種ノ刈取鎌ヲ使用ス
- (ロ) 農家多忙ノ期節ニ特ニ被害多キ地方ニハ小
學児童並ニシテ刈取ラシムヘキヲ
- (ハ) 刈取前種深水トナシ幼虫ヲシテ茎ノ一方ニ居ラシメ
テ刈取ルトキハ刈取容易ナリ

香川

- (イ) 扱取方法ハ従来の如ク茎切鎌ヲ以テスルヲヨレトス
福岡

(イ) 別段ナシ

宮崎

- (イ) 静岡縣吉野式茎切器ヲ用ヒテ可成被害甚
出現ノ當時ニ於テ刈取セシムルニト

愛媛

- (イ) 茎切鎌茎切鎌ハ唯一本竈土際ヨリ切り且ハ葉
鞘ノ剥ケ残ル虞ナキモノニ限リ必要ノ員數ヲ平
素ヨリ準備セシメ際メ各戸ニ就テ調査シ置キ
毎年初期ノ刈取ニ當リテハ郡村技術員実地ニ
就キ方法ハ指導監督シ之ニ熟練セシムルニ切
要ノ時期ハ技術員等実地ノ状況ニ鑑ミテ之ヲ定
メ標識等適宜方法ヲ以テ周知セシムルニ切取茎
數ヲ數少ク株カニ蠟虫少キカ如ク適當ナル切取法
ヲ以テ成績優良ナルモノヲ表彰スルニト

岡山

（イ）吉野式甚切鎌或いは類似、モリヲ使用セシムル
簡便ト認め但し又部は稍大ナルモリヲ可トシ被害甚
ハシシテ苗ニ株ヨリ引出シ又カ引掛ケ根元マテ押
込ニテ鎌ヲ斜ニ保チテ引クヘシ鎌ハ遮鉋ノオオモノ
ニ便利トス

四、切取茎、殺虫處分として最簡便有効と認め方法

東京

(1) 切取茎を焼却するは最も有効ナランモ生茎は焼却困難ナルヲ以テ土中に深く埋没する力又堆肥に混じる殺虫力却て簡便有効ナラン

京都

- (1) 倉庫内を焼却ニ硫化炭素ヲ以テ燻殺スルコト
 - (2) 熱湯中に投シて殺スルコト
 - (3) 初期に切取りタルモノハ牛馬ノ飼料トナルカ堆肥トシテ積込ム
 - (4) 穂先少シノ乳熟セルモノトキ、鶏舎ニ投入シて糞ルトキ、蠅虫並糞ハ鶏ノ好ミテ啄ム良スルモノナリ
- 兵庫
- (1) 茎一土中ニ埋没スルニシテ、茎ニ熱湯ニ浸スルコトナリ

新澤

- (1) 被害切取茎ヲ細切或は細切煮沸シテ家禽ノ飼料トナス方法
 - (2) 被害切取茎ヲ出来得ル丈堆肥製造ノ際中、炭法ニ堆積スル方法更ニ被害茎ヲ細切堆積スルは最も可ナリ
- 埼玉

(1) 被害茎ヲ熱湯中に浸漬スルコト
熱湯中に十秒間浸漬セルモノは全部燻死セリ

群馬

(1) 最簡便ナル熱殺ノ良法トス又駆除地ノ附近ニ適量倉庫ニストキ、其中に切取りタル被害茎ヲ投入シニ硫化炭素ノ燻蒸ヲ施リスルモ良トス

千葉

(1) 切取りタに差ッ其坊ニ於テ直ニ田中ニ踏ミ込ムシ
以テ最簡便有効ト認ム

(4) 前項ニ依リ難キ場合ハ土地ニ穴ヲ掘リテ埋ムルカ
若シヤ葉類ト交互ニ堆積シ石油ヲ注ガテ果ル
焼殺スルニ在リ

其城

(4) 新幹堆肥中ニ深ク埋没スルニト

板木

(4) 短ク切り堆肥中ニ埋メ又ハ畜舎ニ入レ動物ニ食ヒセ
或ハ踏マヌシ可トス

三重

(4) 切取葉ノ處分法ハ一握リ毎ニ差ノ切込ヨリ一寸内外
シ水溜リニ俾入シ墨ヲ幼虫ヲ脱出ヲ防除シ一田面
悉ク刈取り后ニ之ヲ一纏トシ空地ニ積上ケ其上面

ニ粗穀ヲ覆ヒ其ル后粗穀ニ桑々葉或ハ油菜
差ヲ添加シ火ヲ付テ燻殺スルヲ簡便トス

愛知

(4) 被害切取葉ノ處分ニ就テハ種々ノ方法アルモ
最簡便ナル宅地内又ハ其他適宜場所ニ相
當ル處ヲ穿テ其穴ノ周囲ニ溝ヲ設ケ即チ
ナレニ水ヲ溜ヘ石油其他ノ殺虫剤ヲ注ガ墨ヲ
切取被害差ヲ此穴中ニ投シ若シ虫ノ逸出スルモ
アルトキハ此溝ニ板ヲ架テ籠死スルノ設備トナサハ可ナク

静岡

(4) 殺虫處分トシテハ若自切出シタルモノヲ桶ニテ打殺
スヨリ外ナカラン

滋賀

(4) 切取葉ノ殺虫處分トシテ最簡便有効ト認ム

此方法ニ來セタルハ株ヲ外部ニ凹形若ハ角形ニ
積ミ漸次傾斜セシメテ堆積シ泥土ヲ覆ヒテ腐
敗セシムルカ又ハ下部ニ四五寸ヲ熱湯ニ一分間浸
スルト

岐阜

(1) 樵ヲ打散スルモノ多ク又石油ヲ注キテ焼却シ若ハ
土中ニ埋没スルモノナリ

山形

(1) 浸水スルト

秋田

(1) 危險ノ堆積ニ限リ堆積舎附近ニ一定ノ坑ヲ掘リ
墨ヲ塗キ是ヲ板瓦毎ニ各ニ自給肥料内ニ埋没
スルト

富山

(1) 切取基切取當日中ニ熱湯中ニ投スル最簡
便有効ノ方法ト認ム又ハニ硫化炭素燻蒸(干
立方尺ニ封度二十四時間)ヲセハ全滅スルヲ認メ
タリ

切取基翌日迄放置スルトキハ逸出虫多ク

島根

(1) 焼却熱湯液即潰シ等ニ依リ殺虫シテノ就
中焼却セシテ他ニ法ヨリヒ牛馬ノ飼料又ハ堆
肥ノ材料ニ供スルヲ適當ナル處分方法ト認ム

岡山

(1) 被害甚切取基直ニ杵又ハ樵ヲ打チ搗キ
大部分ヲ殺虫ス

廣島

(1) 細断シテ堆肥ニ混合スルト

- (四) 幼虫、逃出せし程度、乾燥し焼却スルコト
- (三) 小束トシテ握ミ茎中ノ幼虫ヲ叩キ殺ス
- (二) 沿海部ニシテ海水ニ浸漬シテ幼虫ヲ殺スコト

山口

- (一) 初期ニ在リテハ茎葉水分ニ富ミ乾燥困難ナルヲ以テ直ニ商店ニ入レ敷草トスルカ或ハ堆肥中ニ埋メ醗酵セシムルヲ便トス時期稍ニ進ミ乾燥容易ナルニ及ハハ適當ニ乾燥セシ後幾分ノ燃料ヲ加ヘ焼却スルカ若ハ打テテ堆肥トスヘシ其他便宜ノ方法ヲ認メス

和歌山

- (一) 熟草中ニ数分時ヲ、被害茎ヲ入ルコト甚難シ適當ト認メ店ニ卸部モアリ
- (四) 被害茎ヲ小束トナシ之ヲ打テ敵ヲ壓搾ノ如キ

- 適當ナル器械ナキトモ、飯合ニシテフエ蟻虫ニシテ挫カレ、筒ハ到底全死ヲ得カタラン且多量ノ被害茎ニ対シテハ、握リシ難シ(壓搾法トシテ砂糖ヲ製造スル地方ニハ、ローラーニシテ以テ)
- (三) 石油又ハ乾燥セル藁屑雜草ヲ燒却スルハ大量ノモノニ對シテハ不適當ト思考ス
- (二) 適當ナル容器室又ハ地ニ掘リ穴ニ入レテニ硫化炭素素煙出スル法ハ未タ実行セサルモ有効簡單ナラン
- (一) 蘇酹蒸氣ニ使用セリ自他ニ逃去スル間ニ牛馬ニハ、瀝セサルヲシメント思惟スルモ未タ実行セス
- (ハ) 池水又ハ海中ニ深ク沈没セシメ窒息死セシムルコト
- 千田川
- (イ) 採取後ハ燒却法ヲ行フニ適當ト認ム

福岡

(1) 焼棄スルノ外良法ナシ

宮崎

(1) 区域ヲ定メテ持寄ラシメ焼却スルコト

愛媛

(1) 適宜地区ヲ定メ日々持寄ラシメ建物等虫ノ
這上リ糞尿越冬ニ適タル場所ヨリ十間以上ノ田
圃其他ノ廣域ヲ選ビ露地ニ於テ被害甚ク
堆積醗酵セシメ肉圃ニ中切シタル麦稈ヲ立テ
添ヘ上ニ覆葦藁ヲナシ三四回内外積替ヲ行ヒテ
其外却末腐熟ノ分及覆葦藁表層其他
諸物稻ニ移リ蝕入シタル形跡アル分ノ葦藁等
悉ク焼棄スルモノトス

五 切取殺虫后、適當ナル處分方法

東京

(1) 切取殺虫后、處分モ亦前記、如ク堆肥ニ混入スル簡シシテ有効ナルヘト認ム

京都

(1) 堆肥トナスカ或ハ竹林ノ敷草トナスカ場合、別ニ特ニ殺虫ノ必要ヲ認マス

但シ九月中旬以后切取リタルモノハ焼却スルカ或ハ蒸殺スルコト

兵庫

(1) 堆肥ノ原料トナルコトナリ

新博

(1) 全部飼料又ハ堆肥トスルヲ以テ此ノ必要ヲ認マス
埼玉

(1) 腐熟セシメテ堆肥トナルコト

群馬

(1) 殺虫シタル被害甚ハ堆肥ノ原料トナスカ又ハ馬糞ニ供スルヲ最適當ノ方法ト認ム

千葉

(1) 它ッ堀リ埋メタルモノニ在リテハ腐敗后之ヲ堀出しテ肥料ニ供スルニ在リ

茨城

(1) 新鮮堆肥中ニ深ク埋没スルコト切取基ノ殺虫處分方法トナシ

栃木

(1) 堆積肥料トシ又ハ家畜飼料・褥材料ニ供スルヲ可トス

三重

(1) 殺虫后、切取茎處分より肥料を充つ(本縣ニ於テ此方法に依ル其便ヲ販賣シ得タル代金他、駆除獎勵費を充ル所村アリ尤モ夫等所村ニ有駆除実地に限り

要知

(1) 前記如ク殺虫處分ヲ極ニタルモ、實ニ屋内ニ搬入堆積肥料トナシ可ナラン

静岡

(1) 以上殺虫方法ヲ行ヒ堆積肥料中ニ入ルカ又、茶園桑園ニ散チ置クト

滋賀

(1) 堆肥ニ積込ニ在リ

岐阜

(1) 堆肥トナスモ、最多ク桑園又、數肥料トシテ直

接施用スルアリ

山形

(1) 堆積肥料ノ原料ニ供ス

秋田

(1) 自給肥料トナスト

富山

(1) 殺虫后、切取茎は厩舎ニ入馬ニ踏ミルカ又、堆肥中ニ混入スルヲ適當ト認ム

島根

(1) 燒葉熱湯浸、即浸シ等ニヨリ殺虫サリフ就中燒葉セシテ他ノニ法ヲ行ヒ牛馬ノ飼料又、堆肥ノ材料ニ供スルヲ適當ナル處分法ト認ム

岡山

(1) 牛馬ノ飼料トナス

- (1) 乾燥シテ風呂下ニ焚ク
- (2) 麦稈或ハ葉草ト共ニ焚焼ス
- (3) 薄荷葉田舎ノ湯ニ浸ス
- (4) 七八寸ニ切断シ家畜ノ敷草ト混合堆積ス

廣島

(1) 堆肥原料トシ又ハ焼却ス

山口

(1) 適宜肥料トス

和歌山

- (1) 桑葉殺セル被害甚ハ厩肥又ハ堆肥ノ原料トス
- (2) 新敵駆除榨室息方法ニ依ルモノ亦全シ
- (3) 焼却セルモノハ無シ肥料ニ用フ
- (4) 燻殺セルモノハト全様ス
- (5) 殺虫燻分ヲ用ヒタル稈ノ乾燥セルモノヲ燃料トス

(1) 白穂ニシテ幾分秕粒ヲ有タルモノハ脱粒シテ家畜ノ飼料トス

香川

宮崎

(1) 焼却以外ノ殺虫法ハ家畜ノ敷草及堆肥ノ原料等ニ供スルヲ適當トス

西宮

(1) 枯草ニ生存ノ蠅虫ヲヨリ認メタル上ハ公賣スルモノトス

亦最後ニ項(第四項参照)ニ現ニ縣下ニ於テ実施タル向アリテ好結果ヲ收メ居リ焼却ニ便ル良法ト認ム

D
1-4
\$17